

日本環境安全事業ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会
東京事業部会議事要旨（平成23年2月23日）

JESCOでは、平成23年2月23日（水）に専門の知識と経験を有する学識経験者で構成されるポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会（主査：永田勝也早稲田大学理工学部教授）を開催し、東京PCB廃棄物処理施設における操業状況等について報告し、審議検討をいただきました。概要については以下のとおりです。

1 東京 PCB 廃棄物処理施設の操業状況について

○水熱分解設備の腐蝕点検状況について

- ・腐食については、定期点検やパトロールで早期発見できるよう引き続き防止対策を怠らないこと。
- ・給水再生熱交の出口部では腐食が発生していない原因は、温度条件に違いがあることを明記すること。
- ・腐食による配管の安全性(寿命)については、傾向管理図等によりわかりやすい説明をされたい。

○局所排気 PCB 濃度高高での設備サイクル停止について

- ・インターロックのかけ方については、種々ケースごとに問題点を整理し、引き続き適切な方法を検討する必要がある。
- ・活性炭設備については、偏流の改善や目詰まり対策を講じ、有効な活性炭処理を検討すること。

2 作業安全衛生の状況について

○血中 PCB 濃度について

- ・ポートグローブの浸透試験の実施方法について補足説明をされたい。

○労働災害発生と再発防止

- ・HH提案は、引き続きフォローアップを怠らないこと。
- ・労働災害の再発防止のため原因を探り出し抜本的な対策を講じていくこと。

3 第2回内部技術評価結果について

- ・洗浄溶剤の管理に係る要領書・手順書の作成については、現時点での手順書を作り、その後運転データに基き見直していくことが必要であるので早めの対応を講じること。
- ・評価の所見については、対応されているならばその状況を記載すること。
- ・HHについては本社も関与して5事業所での情報共有化等を検討されたい。